

第1学年東組 生活科学習指導案

「秋となかよし ～2年生を秋のテーマパークに招待しよう～」

学習指導者 増田 洸一 支援員 内田 珠世

1 学級（35名）の実態

（1）方法の習得を目指す自己調整力に関する実態

〔自らの学びを正確に捉える力〕

質問紙調査では、自分が立てた目標を達成できたかどうか考えていると回答した子供は31名で、新しく分かったことやできるようになったことが何かを確かめていると回答した子供が25名であった。しかし、教師の見取りでは、実際の振り返り場面において、目標を達成したと思っていても、実際は足りない部分があるなど、客観的に自分の学びを正確に捉えることがまだできていない子供が多い。

（2）教科に関する学級の実態

季節に関わる単元では、これまでに春と夏について学習しており、夏遊びでは、水遊びやシャボン玉遊びなど、自分たちで遊びを計画し、遊び方や遊び道具を準備して行った。図画工作科では、ものづくりで自分の作品を工夫する際、自分の思いや願いを基に、作り変えることができていた。

本単元で習得させたい「自らの学びを正確に捉える方法」

前の時間と比べながら、ペアに遊びを試してもらい、客観的な意見をもらう

1 本単元で目指す『多様な他者と共に、自ら学びを進める子供』の姿

これまでの楽しかった春や夏の遊びを想起したり、校外学習で見つけた秋の写真を見返したりした子供たちは、「身の回りにある秋をもっと見付けたい」「今度は秋を使ってみんなで遊びたい」という思いをもち、「クラスみんなで秋のテーマパークを作ろう」という単元のゴールを設定する。ゴールに向けて、まずは学校や家の周りなど身近な環境で秋の自然物を集め、諸感覚を使い観察したり比べたりする活動を計画した子供たちは、形、色、大きさといった特徴の違いや転がす、回す、振るなどといった動きの面白さに気付き、迷路や楽器、どんぐりごまなどを作って遊んでいく。作った遊びをクラスで楽しんだ子供たちは、2年生がおもちゃ祭りに招待してくれた経験から、そのお礼に「2年生を誘って一緒に遊びたい」という思いをもち、「2年生を招待して、秋のテーマパークを開こう」という単元のゴールを再度設定する。前時までの自分の遊びの写真や振り返りを基に、ゴールに向けて大切にしたい視点「2年生が楽しめる」「秋のものを使っている」から個人課題を選び、その課題に合う解決方法を考えていく。そして、作りながら遊んで修正することを繰り返して、試行錯誤しながら遊びを工夫していく。振り返り場面では、前の時間と比べながら工夫した遊びをペアに試してもらい。例えば、迷路を作った子は「僕はストローで障害物を増やして、2年生も楽しめる難しいコースにしたよ」「本当だ。前よりゴールが難しくなったね。『2年生が楽しめる』がよくなったと思うよ。でも、前半部分は簡単だよ」「なるほど。後半は難しくなったけど、前半はあまり変えていなかったな」などと客観的な意見をもらうことで学びを正確に捉え、チェックシートに丸を付ける。さらに「次は秋の物を増やそうと思ったけど、前半部分を今よりもっと難しくしたいな」などと、次にしたいことを見付けていく。予行後、遊びを改善する際も、粘り強く修正し、学びを正確に捉え、次にしたいことを見付けていく。このように、自分の思いや願いを明確にして、繰り返し秋の遊びに関わっていく中で、子供たちはチェックシートの振り返りや毎時間の工夫した遊びの写真を蓄積し、自分の取り組みや成果を自覚しながら、自己の変容や成長を捉えていくだろう。そして、本単元の学びを生かして冬の遊びを考えるなど、生活をより豊かに創造していく。

3 単元構成の工夫

(1) 【魅力的な目標を子供と共有】①⑤

子供たちは、春夏の季節に、生き物や植物を探したり、遊びを考えたりして楽しんできている。また、校外学習の際に秋らしい自然を目にしている。①時間目は、それらの経験を想起させることで、今度は秋を使ってみんな遊びたいという意欲を高め、「クラスのみんなで秋のテーマパークをひらこう」という単元のゴールや秋と仲良くなるために「秋のものを使っている」遊び（遊ぶもの、遊び方）を考えるという視点を共有する。さらに、そのゴールに向けて必要なことを話し合い、学習計画を作成していく。⑤時間目には、2年生がおもちゃ祭りに招待してくれたことを想起させ、そのお礼に「2年生を招待して、秋のテーマパークを開こう」という単元のゴールを再度設定し、「2年生も楽しめる」という視点を共有する。そして、もっと遊びを工夫したり、招待状や会場の準備などをしたりする必要性を共有し、計画表を更新していく。



【単元計画表①】

【単元計画表⑤】

(2) 【子供が自ら選択して、学びを進める場の設定】⑦～⑪、⑮⑯

単元のゴールに向けて、秋の遊びを工夫する際には、遊ぶもの・遊び方どちらを工夫するのかを選択する。その後、使いたい材料や道具、活動を個人にするのか友達とするのかを選んでいく。秋の自然物だけでなく、段ボールや竹串などの材料、工作用道具は、必要に応じて子供たちが自由に使えるようにしておく。また、友達の工夫を掲示した遊びマップ（4頁参照）を参考にし、遊びを工夫できるようにしておく。

(3) 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て（本時 9/18）

次	学習の流れ	手立て
一	① 学習の計画を立てよう 春夏の遊びや校外学習の経験から、もっと秋を探してクラスみんなで遊びたいという意欲を高め、単元のゴールを設定し、計画を立てる。	【チェックタイム】 ⑦～⑪、⑯ 認知⑦～⑨時間目の振り返り場面では、「今日の自分の成長を確かめるためには、前の時間と比べながら、ペアに遊びを試してもらおう」ことを教示する。その際、前と比べながら、ペアに遊びを試してもらい、めあてをクリアしているかどうか確かめてもらいながら交流するとよいことを伝える。
	②～⑤ 秋のものを見つけて、秋の遊びを作ろう 校庭などで秋の自然物を集め、形や色、大きさなどを比べ、その特徴を捉える。その特徴を生かした遊びを作り、自分で遊ぶ。	
	⑥ 1 東秋のテーマパークをひらこう クラスで秋の遊びを紹介し、遊ぶことで、秋の遊びの楽しさを共有する。2年生を招待したい気持ちを高め、単元計画を更新する。	
二	⑦～⑪ 秋の遊びをレベルアップしよう 2年生とのゴールに向けて、前時までに作った遊び（遊ぶもの・遊び方）を工夫する。前時と比べながら、ペアに工夫した遊びを試してもらい、客観的な意見をもらうことで、自分の成長を捉える。	想起⑩～⑪、⑯時間目には、「今日の自分の成長を確かめるにはどうすればよかったかな」と問い、方法を想起させる。 実感教師が撮影した工夫した遊びの写真をチェックシートに蓄積し、前時と本時の遊びを比較しやすくすることで、遊びの変容を捉えやすくする。また、遊びをペアに試してもらい、自分の成長を感じたり、自分にはなかった視点を見付けたりできたと感じられている姿を価値付け、方法の良さを実感できるようにする。
	⑫⑬ 予行の準備をしよう 予行に向けて、必要なことを再度確認し、全校生への招待状を書いたり、接客の仕方を考えたり、会場の設営準備をしたりする。	
	⑭～⑯ 予行を行い、秋のテーマパークをよりよくしよう ⑭で西組を招待して予行を行う。⑮⑯で予行での改善点を基に本番に向けて遊びや会場の準備の仕方などを改善していく。	
三	⑰ 2年生を秋のテーマパークに招待しよう 2年生を秋のテーマパークに招待し、みんなで秋を楽しむ。	
	⑱ 秋のテーマパークを振り返ろう 2年生からのアンケートを基に、秋のテーマパークを振り返り、単元を通した自分たちの変容や成長を実感できるようにする。	

4 本時の学習

目 標	ゴールに向けて設定した個人課題を基に、その課題に合う材料や道具を選び、遊びを工夫する活動を通して、自分の遊びをより楽しくしたり、より秋の自然物を使った遊びにしたりできる。
--------	---

学習活動と手立て	主な子供の意識	
見 通 し	1 チェックシートを基に個人課題と解決方法を確認する。	ゴールに向けて、今日も秋の遊びをレベルアップしよう。
		秋の遊びをもっともっともっとレベルアップしよう
		ゴールの達成に向けて、2つめあてがあったね。
		2年生が楽しめる遊びにしよう
		秋の物を使った遊びにしよう。
		的当ての的を、色んな大きさのカップやペットボトルの蓋を使って、入れの難しさを変えたい。
行 動		今より秋らしい迷路にするために、木の枝を使って、色んな新しい道を作りたい。
		自分とペアの今日することがはっきりしたね。
	2 遊びを工夫したり、修正したりする。 ・個人で ・ペアと ・他の友達と	今日は、前より早くめあてが決まったね。前はレベルアップする時間が少なかったから、その時間を伸ばして22分。振り返りを13分で進めよう。
		必要な道具や材料を準備しよう。
		2年生には、ペットボトルの蓋の的を作って、今よりも難しくしよう。
		枝をボンドで付けて、コースを作ってみよう。どう枝を使おうかな。
振 り 返 り		実際に行ってみると、前より入りにくくなっていい感じだ。他の友達はどんな工夫してるかな。
		秋遊びマップで見ると、どんぐりを投げる位置を工夫している友達がいるな。そこは真似してみよう。
		友達は枝じゃなくて、どんぐりをつなげてコースを作っているな。秋の物が増えて秋らしくなっているな。
	3 本時の学習を振り返り、次時したいことを見付ける 【チェックタイム】	ペアに遊びを試してもらい、めあてをクリアできたか確かめてもらおう。
		的当ての的を、ペットボトルの蓋を使って、難しさを変えられたよ。
		木の枝を使って、くねくね道や細い道を作ったよ。どんぐりも置いたよ。
	前はストローで道を作っていたけど、木の枝やどんぐりを使ってコースを変えたんだね。秋を使えているね。	
	前より、どんぐりを入れる的が難しくなったね。でも、的が小さすぎてそこには全く入らないよ。	
	もっと近くから狙ったら入りやすいかな。まだレベルアップできそうだ。	
	ありがとう。秋の物を使う今日のめあてはクリアでいいかな。	
	チェックシートに丸をして、次にしたいことも書こう。	
	難しくはなったけど、もう少し狙いやすい位置からの的を狙えるようにしたいな。今日は1つ増えて丸6個だ。	
	秋が上手く使えて丸8個だよ。次は2年生が楽しめる難しいコース作りに同じ材料を使って挑戦したいな。	

評 価	ゴールに向けて設定した個々の課題を基に、自分の課題に合った材料、道具を選び、粘り強く遊びを工夫し、その遊びを友達と試し合うことで、自分の取り組みと成果を捉えたり、次に工夫したいことを見付けたりしている。 【方法：発言、様相、記述】
--------	---

～見通し～ **学習活動1**

前時の振り返り場面において、子供たちは自分の遊びをペアに試してもらい、交流する中で、次に工夫したいことを見付け、チェックシートに記述している。本時では、教師がまず「今まで何をしてきたかな」と問い、単元計画表を基に、ゴールに向けて秋の遊びをレベルアップしてきていることを確認する。また、ゴールに向けて大切にしている視点「2年生が楽しめる遊びにしよう」「秋のものを使った遊びにしよう」を再度共有し、この2つを達成すると秋の遊びがよりゴールに近付くことを確認する。その後、チェックシートで前時までの遊びを見返しながら、その2つのどちらかを個人課題として選び、その課題を解決するために、今日何を使ってどんな工夫をしていきたいかという解決方法を考える場を設定する。考えがまとまった子供は、どちらの課題にしたのかを示したバッジを付けることで、活動中もその課題を意識しやすいようにする。そして、ペアで個人課題とその解決方法を伝え合う場を設定し、今日することをペアで共有することで、活動の見通しをもてるようにする。☒課題や解決方法を伝えられていないペアには、個別に声を掛け、ペアで活動の見通しを持てるようにする。

～行動～ **学習活動2**

行動場面では、個人課題に沿った解決方法を基に遊びを工夫していく。材料、道具は自由に使えるように用意しておくことで、必要に応じて子供が選び、自分の遊びを工夫しやすくしておく。また、毎時間子供が作った新しい遊びを教師が紹介する中で、見付けたそれぞれの遊びや動き、詳しい工夫をまとめた秋遊びマップを提示しておく。本時でも、活動の中で見付けた新しい工夫があれば、教師が付け足して



【秋遊びマップの一部】

いき、子供たちは各班の端末で学習支援アプリを通して、それらを見て参考にできるようにして、粘り強く遊びを工夫できるようにする。活動時間については、前時までの時間配分を基に、子供たちと一緒に再度設定し直し、時間を有効に使えるようにする。また、活動の残り時間は、音楽をかけることで、あとどれくらい活動時間があるのか子供たちが意識して取り組めるようにする。本時の課題解決が難しく困っている子には、秋遊びマップを見せながら、他の友達の遊びを参考にしてもよいことを伝えたり、どんな工夫をしたいのか問い、一緒に解決方法を考えたりして支援していく。☒同様に個別の声掛けを行う。

～振り返り～ **学習活動3** 【チェックタイム】

振り返り場面では、「今日の自分の成長を確かめるにはどうすればよかったかな」と問い、前の時間と比べながら、ペアに遊びを試してもらい、めあてをクリアできているかどうかをたしかめてもらう方法を板書の掲示を基に認知させる。この交流は単元を通していつも同じペアで行い、どんな遊びをこれまでレベル



【チェックシート】

アップしてきたのか、本時までの変容をお互いに捉えやすくしておく。遊びを試してもらう際には、前の時間と比べながら、個人課題がクリアできているかどうかという視点で交流する。実際にペアに遊びを試してもらった後は、本時の自分の取り組みと成果がどうだったのかチェックシートに10段階で丸を付ける。なぜそこに丸をしたのか理由を発表する時間を設定し、自分の成長を感じたり、自分にはなかった視点を見付けたりできたと感じられている姿を価値付け、方法の良さを実感できるようにする。交流する中で、見付けたゴールに向けて次に工夫したいことも、シートに記述するよう促す。本時レベルアップした遊びの写真は教師が授業後に撮影印刷し、それぞれのシートに貼れるようにする。子供たちはこのチェックシートの振り返りや毎時間レベルアップした遊びの写真を蓄積していくことで、できるようになったことや自分の取り組み、成果を自覚しながら、自己の変容や成長を捉えていく。学びを正確に捉えられていないペアには、個別に声掛けをし、第三者として客観的な評価を行い、次時の工夫のヒントを一緒に考える。☒同様に個別にペアに声掛けを行う。